

(様式第3号)

政務活動報告書

会派名 (会派新生)

活動事項	行政視察
活動年月日	令和7年11月18日(水)～令和7年11月20日(金)
場所	佐賀市、長崎市、久留米市
活動の相手	同上
参加議員名	会派新生 所属議員11名 上杉栄一、砂田典男、西村紳一郎、加藤茂樹、魚崎勇、西尾彰仁、吉野恭介、中山明保、岡田信俊、寺坂寛夫、星見健蔵
目的・内容 ・結果等	<視察項目> ・スーパーアプリについて ・原爆資料館について ・久留米シティプラザについて <所見等>・・・別紙
関連する 支出伝票番号	17, 18, 19, 20

様式5

視 察 報 告 書

令和7年11月25日

鳥取市議会議長 星 見 健 蔵 様

鳥取市議会 会派新生

上 杉 栄



令和7年11月18日から11月20日まで鳥取市議会 会派新生の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

佐賀市

佐賀市公式スーパーアプリについて

はじめに、

佐賀市スマートシティ宣言 令和4年7月26日

令和4年3月「佐賀市DX推進方針」を策定し、デジタルを活用したまちづくりを推進している。

住民・地域・企業・行政が一体となって、佐賀市版DXをさらに強力に推進し、地域経済の活性化を図り、暮らしや生活がより便利に、より快適に、生活に合わせた多様で柔軟な働き方ができるような「スマート・ローカルSAGACITY」の実現に取り組んでいくことを宣言

スマートシティ実現のための重点分野と重点取組

1. 市民サービス DX

◎パソコン・スマホでオンライン申請

◎佐賀市スーパーアプリの構築

2. 防災 DX

◎災害・防災情報のデジタル化

◎ドローン・スマホを活用した災害復旧

3. 子育て・教育 DX

◎子育て情報・教育現場のデジタル化・オンライン化

◎位置情報システム等を活用した見守り

4. 産業 DX

◎ICTを活用した経済DX

◎AI・IOT等を活用したスマート農林水産業

佐賀市公式スーパーアプリ

(佐賀市のあらゆるサービスを一つのアプリで使える)

機能

・デジタル市民証

本人確認に活用

◆氏名などの記入が不要になり、市民の負担軽減

◆入所手続きがスピーディになり、受付窓口前の混雑解消

◆事前登録した家族等に避難時に、安否連絡を指導送信

・ゴミカレンダー

◆ゴミ出し日をPush通知で知らせる

・災害・防災ミニアプリ

- ◆災害状況が分かる⇒浸水状況提供システム⇒避難行動につながる
 - ◆リスクロ(市民投稿型災害マップ)
 - ◆防災学習コンテンツ
 - ◆避難情報ハザードマップ
 - ・デジタル図書館カード
 - ・学校出欠連絡ミニアプリ『れんらくくん』
 - ◆3つの機能
 1. 出欠や遅刻の連絡
 2. 学校からのお知らせ
 3. 行事予定等の掲示板
 - 【保護者】空き時間に連絡
 - 【教職員】電話対応大幅減・データ集計 3,051時間削減
 - 導入学校 35校
 - 登録者数 9,201人
 - 保護者からの連絡 61,010回
 - 学校からのお知らせ 4,808回
 - ・トピックタウン 双方向のコミュニケーション機能
 - ・子育てナビ 子育て情報をお知らせ
 - ・お天気情報等
- 月間約8万アクセス
- 出欠連絡 41,893回 デジタル図書館カード 10,492回
- ごみカレンダー 8,325回

所 見

住民サービスに特化した機能が充実していると感じた。

ダウンロード数も8万以上で差が市民の3人に一人が利用している計算になる。特に、学校出欠連絡アプリは、保護者・教職員双方にメリットがあり、教職員の電話対応の大幅減により子どもと触れ合う時間が確保できるなど、導入効果は大きいと感じた。アプリ導入の事業費についての説明はなかったが、本市でも導入に向けて検討する価値はあるのではと考える。

長崎市

長崎原爆資料館

長崎原爆資料館は、長崎市への原子爆弾投下に関する資料を取り扱った長

崎市立の資料館。平和公園の一角をなす。

「1945年8月9日」「原爆による被害の実相」「核兵器のない世界を目指して」などのテーマに沿って資料、写真、パネル等が展示されている。館内には、原爆投下で時間が止まったままの「11:02 の時計」や折れ曲がった工場の鉄骨、爆心地側の部分が熱戦により焼けた橋げたなど、破壊された建物などの一部が移設されている。

一部の資料には手で触ることができ、原子爆弾の悲惨さ凄絶さを伝えている。長崎方原爆とも呼ばれる「ファットマン」などの模型も展示されている。「被爆した長崎の街」のコーナーでは、長崎市の地形模型を使い、原爆被害の面的な広がりを視覚的に理解することができる。原爆記録映像や被害者の証言ビデオなどの上映もあり、長崎原爆の全体像を学ぶことができる。

長崎市への原爆投下に関する展示だけではなく、原爆投下の遠因となった日中戦争と太平洋戦争「核兵器の時代」として核兵器・核実験の現状について「核兵器開発・実験の被害者達」として、第五福竜丸の船員などアメリカやソ連原爆実験やウラン鉱山での労働などで放射線障害を被った風下住民について解説するコーナーも設けられている。

参考文献(ウィキペディア)

所 見

平和記念像のある平和公園を見学しその後、長崎原爆資料館を視察した。平和記念像は、長崎出身の彫刻家 北村西望により制作され1955年平和公園内に設置、除幕式を行っている。当日は修学旅行生や外国観光客が訪れていた。その後、東側にある原爆落下中心地公園を見学した。長崎原爆資料館は、平和記念公園と同様に、修学旅行の学生、生徒、児童や海外からの観光客で館内は大変混雑していた。その為か、見学路が非常にゆっくり進んだため、丁寧に展示物の説明書を読みながら見学することができた。ウクライナとロシアの戦争やガザの問題、最近の台湾有事に対する高市首相発言に対する中国の反発など、世界の安全保障は厳しくなっている。

わが国でも、外国人排他を叫ぶ新興政党も複数組織化されている。

田中角栄元総理は、「この国の中心に戦争の経験者がいる間は、日本は大丈夫だ。経験者が居なくなった時が危ない」石破前総理が若い頃、田中角栄氏からよく聞いた言葉で、演説の中で時々紹介されていた。

原爆資料館を視察して、改めて平和の尊さ、戦争の悲惨さや愚かさを感じた。原爆資料館の入り口付近に、鳥取市の小学校から送られた千羽鶴が下げてあり、学校名が記されていた。今年7月に広島市と長崎市に贈られたということ、平和学習に取り組んでいる鳥取の子ども達が間近に感じられ

た。

久留米市

久留米市の概要

- 面積 229,96 km²
- 人口 299,539 人
- 世帯数 143,597 世帯
- 福岡市・北九州市の政令都市に次ぐ福岡県第三の都市

久留米シティプラザについて(現地視察)

1. シティプラザの位置づけ

○整備の背景

- ・既存の施設が老朽化し、話題性のある鑑賞・公演が開催できない市民会館の建て替えの必要性
- ・医療や高等教育機関が集積しながらも、学会等の受け皿となる施設が不足
- ・H17 年ダイエー、H21 年久留井筒屋の閉店など、中心市街地の求心力が著しく低下。

○整備の方向性(H23 2 発表)

① 整備基本方針

これまでの諸課題を補完するホール機能と、コンベンション機能を併せ持った広域の文化・交流促進の中核施設を中心市街地に整備し、文化芸術の振興とまちなかの賑わい創出による中心市街地の活性化を図る。

② 施設機能

- ・ホール機能(演劇、舞踊。コンサート、大規模会議棟の多目的ホール)
- ・交流機能(市民等が演劇や音楽等の倫修や創作、発表の場)
- ・コンベンション機能(学会等の多彩なコンベンションや展示会等の場)

2. 事業スケジュール

○整備スケジュール

- 基本設計 H24 年 5 月～10 月
- 実施設計 H25 年 1 月～7 月
- 工事入札 H25 年 8 月～9 月
- 工事 H25 年 10 月～H28 年 1 月(約 28 か月間)
- 開館 H28 年 4 月

3. 整備事業費

財源

国庫補助金	41 億円
合併特例債	125.8 億円
都市プラザ整備基金	3.0 億円
一般財源	7.2 億円
市の実質負担額	
一般財源	7.2 億円
その他(基金)	3.0 億円
地方債の元利償還額	130.0 億円
(交付税措置額)	(89.2 億円)
実質負担額	51.0 億円

4. 久留米シティプラザ 施設概要

① ザ・グランドホール

優れた音響性能を持つ音楽を主目的としたホール
クラシック、オペラ、ミュージカル等の高品質な鑑賞公演や舞台に対応
座席数 1,514 席。客席最後列から舞台まで約 30m と近い。

② 久留米座

演劇を主目的とし、主舞台と十分な広さを持つ袖舞台を持つ。座席数 399 席。花道や仮設能舞台も設置可能で日本の伝統芸能にも対応可能。

③ Cボックス

公演リハーサルや練習のほか、発表会、会議、展示会、レセプションなど
様々な催しが可能。

座席数 144 席 平土間形式では 300 m²の広さを持つ。

④ 展示場

文化芸術作品や、各種展示会、見本市、学会等のレセプションなどに対応
面積 約 430 m²、3 分割利用可能(大型エレベーターが直接着床する)

⑤ 会議室

大会議室(約 530 m²)

中会議室(約 240 m²)

小会議室(約 140 m²)

⑥ 長盛(和室)

茶道、華道、能等の古典・伝統芸能の稽古などに対応。

日常的には着物の着付けから将棋まで幅広く利用されている。

⑦ スタジオ

音楽の練習に適したスタジオ 2 室(各 61 m²)とダンスやバレエの練習に適
したスタジオ 2 室(約 105 m²)

⑧ 六角堂広場

膜屋根を設置した、全天候型の広場(約 1,300 m²)

普段は憩いの場となっているが、昇降ステージ、給排水、電気など、イベントをする際の設備も充実しており、催しの際は多くの人が集まるにぎわい空間となる。

5. 組織体制

運営には、基本方針の決定や許可などの行政処分を行う行政職員だけでなく、ホール等の運営に関する豊富な経験や技量、創造的な発想力を有する専門的なスタッフが必要不可欠なことから、行政職員と専門スタッフを基本に構成している。

6. 施設稼働率

開館以来、施設稼働率も上昇傾向にあったが、コロナの影響により、ホール系は1/2以下、広場は1/3にまで落ち込んだ。令和3年度からは回復傾向にあり、令和5年度4、ホール系はコロナ前の8割～9割の回復に留まったものの。会期室系はコロナ前より高い稼働率となっている。

所 見

久留米市シティプラザを視察先に選んだ大きな理由は、本市が取り組んでいる鳥取駅周辺再整備事業のコンセプトに共通点を感じたからである。

鳥取駅周辺再整備事業は、2核2軸の駅周辺核、鳥取城周辺核をつなぐ2軸（若桜街道・智頭街道）の賑わいを取り戻す核として事業が進んでいる。久留米シティプラザは、中心商店街に立地していた井筒屋久留米店の跡地を整備し、中心市街地の賑わいと老朽化した市民会館等の文化芸術拠点として整備されたものである。

開館から10年が経過、コロナ禍で落ち込んだに利用者也コロナ前の8割まで回復した。全館の利用者数は約557,600人(令和6年度)

収支状況では、

歳入 164,698 千円

歳出 施設維持管理費等 578,262 千円 人件費 243,770 千円

収支 △657,343 千円

公共施設であるため施設利用料が収入の主体となり、維持管理費、人件費等で約6億5千万円の持ち出しとなっている。

開館当初より、直営方式で運営しており、49名のスタッフで構成している。指定管理制度も検討したが、そぐわないことから直営での運用ということ、近年は、指定管理制度についても様々な課題が指摘されているが、民間資金を導入したPPPやPFIでの事業が進んでいる。本市で取り組まれている駅前周辺再整備事業については、国庫補助金の活用は基より、民間と連携することにより民間資金の活用により本市の負担を最小限に抑えていくこと

視 察 報 告 書

令和 7 年 12 月 1 日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

会派新生

砂田 典男

㊞

令和 7 年 11 月 18 日から令和 7 年 11 月 20 日まで鳥取市議会会派新生の行政視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

視察先： 佐賀市議会

① スーパーアプリについて 令和 7 年 11 月 18 日 14 : 30 ~ 16 : 00

佐賀市は 2022 年 7 月に「スマートシティ宣言」を行い、「日本一便利なまち」の実現を目標に掲げました。行政手続きでの長時間待ち、毎年のように発生する災害時情報の伝達、地域経済やコミュニティの弱体化など、全国共通の課題に直面し、スマートフォンの活用に着目しました。

そこで、市民サービス向上と地域課題解決のため、一つのアプリに複数の行政サービス機能を統合した「佐賀市公式スーパーアプリ」を開発し、令和 5 年 4 月に公開、同年 6 月に正式リリースしました。

このスーパーアプリは、市民・企業・地域・行政をスマホでつなぐデジタルな「市役所の手のひら版」として位置づけられ、行政だけでなく市民や企業と共創しながらサービスを育てるプラットフォームを目指しています。

政策目的として、住民利便性の向上や住民負担軽減、職員負担軽減（DX による業務効率化）、さらにはデジタルデバйд対策として高齢者等へのサポートも重視されています。実際、市はアプリの操作講習会を各地域公民館で開催するなど、デジタルが苦手な層への支援にも取り組んでいます。

本市にも、防災アプリ等が有りますが防災関連の機能は充実しているのですが佐賀市のような、ゴミ出し情報や地域情報共有機能（校区単位の地域マップ&掲示板機能による、地域のお知らせやイベント情報を住民同士で共有・発信機能また、学校欠席連絡「れんらくん」という学校出欠連絡ミニアプリで保護者がスマホから欠席連絡ができ、学校からのお知らせ受信も可能です。

また、デジタル市民証（佐賀市民証）としてスマホ上に表示できる電子市民 ID で、本人確認手段として機能します。これはマイナンバーカードの IC チップをスマホで読み取り、佐賀市民である事を確認したうえで発行されるデジタル証明書、アプリ内に二次元コードとして表示されます。

氏名。住所を含むこの QR コードを提示すれば、避難所受付や市民限定イベント参加時に名簿記入なしでスムーズに入場できる仕組みです。

このように、スマホで本人確認ができる機能があれば、本市でも導入して災害時の避難所受付等に利用することが出来れば大変に便利で時間短縮にも繋がります。是非とも、導入して頂きたい機能の一つだと思います。

12 月議会質問の一項目にしたいと思っています。

視察先 長崎市 平和公園・原爆資料館 11 月 19 日 午前中

長崎市には、過去何回も視察で訪れましたが平和公園・原爆資料館を訪れるのは初めてです。 大変に良い機会を頂きました。

長崎駅前の宿舎から、長崎名物路面電車を利用して運賃 150 円をスイカで払い平和公園停留所で下車し、小高い丘の上にある平和公園まで徒歩で向かいました平日にもかかわらず、訪日外国人の多くのグループの人達と一緒にエスカレーターに乗り、公園の正面に到着しました。

公園には、各国から寄贈されたモニュメントが至る所に設置されていました。広場には、平和の泉に囲まれた青銅製の巨大な平和記念像が設置されています。

広島市の原爆記念公園には何度か訪れたことがありますが、長崎の平和公園は初めて訪れたために感慨深い思いがありました。

その後、長崎原爆資料館を訪れました。当日は修学旅行生や小学生、訪日外国人等で足の踏み場もないぐらい展示場内は大変混雑していました。

1945年8月9日、午前11時2分、長崎の街は一発の原子爆弾により大きな被害を受け、多くの人々が一瞬のうちに亡くなりました。

かろうじて生き残った人々も、身体や心に深い傷を負い多くの被爆者が今も苦しんでいます。長崎原爆資料館は、被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示すると共に、核兵器の状況なども紹介し、核兵器廃絶と恒久平和の実現を世界に訴え続けています。

現在、全世界には核兵器は原爆と水爆の2種類があります。そして、原爆の威力も長崎や広島で使われた原爆の数百倍のものから数分の1のものまであり、発射する方法や射程距離の違いなどによってさまざまな種類があります。

現在、世界中には核兵器と使用できる核弾頭は1万発をはるかに超えるといわれています。しかし、核兵器を持っている国は、どんな種類の核兵器をどれ位持っているかをできるだけ他の国に知られないようにしているので、核兵器の実態は正確には分かっていません。

長崎や広島に原爆が投下されて以後、核兵器は使われていません。しかし、核実験場の周辺や核兵器をつくるための鉱山や工場などで働いているうちに放射線を受けたり、1945年3月1日ビキニ環礁での水爆実験による死の灰を浴びた第五福竜丸の乗組員のように被害を受けた人々はたくさんいると思われます。

しかし、このような事を隠そうとしたり、病気と放射線の関係が医学的にははっきりされていないこともあり、被害者の正確な数など実態は明らかになっていません。この視察を機会に改めて核兵器に関するいろいろな問題がある事を再認識しました。一日も早く核兵器のない平和な世界をつくるための良い機会になったと思います。

視察先 久留米市シティプラザ

11月20日 9:30~11:30

久留米シティプラザは福岡県久留米市の中心市街地に位置する文化交流施設です。県南地域の中心地として栄え、久留米ほとめき通り商店街隣接するこの場所に賑わいと求心力を象徴する新たなラウンドマークとして、2016年4月に誕生しました。国内外の文化芸術に気軽に触れられる機会を提供し、多様なイベントを行うとともに、積極的に MICE を誘導し、久留米ならではの賑わいと文化、価値を、市民の皆さんとともに創造・発信する場として、多くの方に愛される施設になりたいと願っています。

2F のザ・グランドホールは優れた音響性能を持つ、音楽を目的とした多機能ホールです。客席を4階層にし、ホール全体の空間を大きく取ることで豊かな響きを生み出します。オーケストラピットや仮設花道など、充実した舞台設備を備えており、クラシックコンサートだけではなくオペラやミュージカル、歌舞伎などの上演、MICE の開催も可能です。

客席最後尾と舞台との距離は 30M の近さで、演者との一体感が感じられます。座り心地に配慮した客席のサイズでゆったりと座ることが出来る作りになっていました。

1F には、長年愛された旧六角堂広場の名前を引き継いだ広場、膜屋根があるため、雨天時でも利用できます。商店街に面し開放的空間を活かした各種イベント会場として利用されています。催事がない日は憩いの場となっています。

2F 展示室は、芸術や書道などの展覧会や各種展示会、見本市などが開催できます。天井のバトンに照明や看板などを吊るすことができ、展示パネルや机を配置して様々な演出が可能です。また、3分割して利用することもできます。

4・5F は会議室として大・中・小の会議室はそれぞれ3つに分割でき、目的に合わせて広さを選ぶことができます。

会議やセミナー、控室など様々な用途で利用可能です。

4F 和室「長盛」は伝統文化の催しが可能な格式の高い和室です。

京間 8 畳 3 室のすべてに炭がつかえる炉（でんきろ兼用）を備え、茶会やお稽古、茶事を行うことができます。水屋や台所、路地庭を備えており、襖を取り外せば 30 畳の大広間として日本文化の様々な催しに利用できます。

また、和机を使用した研修などの利用も可能です。

また、スタジオ機能もあり、全ての部屋が防音性と遮音性に優れ、床はバレエマット、1 面張りになっており、1 面鏡張りになっており、音楽やダンスの練習に適しています。会議やセミナーとしても利用可能です。

現在、鳥取市に於いても鳥取駅周辺エリアに県施設や市施設等 4 施設の再開発を含めて検討されていますが資金面で大変に苦勞されている現状です。

久留米市シティプラザの場合は説明者の話によりますと合併特例債を使用し建設されたとの事でした。

本市には、特段の財政処置もない状況ですから今後は民間企業の再開発などの機会を利用しながら慎重に行っていくことが賢明だと思います。

以上、

(様式5)

視 察 報 告 書 (会派用)

令和7年12月 1日

鳥取市議会議長 星 見 健 蔵 様

会派新生

西 村 紳 一 郎 ⑩

令和7年11月18日から令和7年11月20日まで鳥取市議会会派新生の行政視察(調査)に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：「佐賀市公式スーパーアプリ」について

令和7年11月18日(火)午後2時20分佐賀市役所訪問、市議会事務局の職員に玄関まで出迎えを受けた。会議室にて、主題について説明を受けた。

佐賀市公式スーパーアプリは酒井英隆市長のトップダウンにて、令和4年7月に「スマートシティ宣言」に伴い、導入された。目指す姿は「日本一便利なまち」です。行政手続きの長時間待ち、毎年のように発生する災害時の情報伝達、地域経済やコミュニティの弱体化など、どこの自治体も直面する課題にスマートフォンの活用に着目し始められました。佐賀市スーパーアプリは市民サービス向上と地域課題解決のため、一つのアプリに複数の行政サービス機能を統合し、令和5年6月に正式リリースされていました。高齢者等へのサポートもアプリ操作講習回を各公民館で開催し、苦手な層への支援にも取組まれています。

質問) 教育委員会主幹の不登校対策に対するアプリ活用に効果について尋ねた。

回答) 教育委員会とのデジタルデバインドは進んでいない、今後の課題です。

質問) 多くの分野が網羅されているが、農林水産業関連の利用について尋ねる。

回答) 農業分野での特産品の紹介などを行っているが、多くはこれからです。

スーパーアプリは導入後、間もないこともあり、今後の活用拡大への取組が望まれると感じた。人口減少は必ず働き手の人手不足を招く、希望的観測は排除し、

発想を転換し、デジタル（D X）の充実を目指すことは重要と感じた。本市も更に、D Xを推進すべきである。午後4時、議場を見学して市役所を後にした。

「長崎原爆資料館」について

11月19日（水）宿泊先から路面電車を利用し、平和公園駅にて下車。平和公園で原爆犠牲者の冥福と平和を祈り、平和記念像に手を合わせた。折しも、戦後80年の節目のこの度、長崎平和公園、平和記念像、原爆資料館、爆心地を初めて訪れました。原爆資料館は修学旅行の生徒たちの平和学習の場となり、混雑していましたが、原爆の悲惨さ、脅威、投下場所の地理的状況、破壊の威力、原子爆弾の世界における保有状況等多くの展示を見学出来て、大変意義深く、平和の尊さを感じられて、感無量でした。時期を同じくして、国会の党首討論に於いて、公明党の斎藤代表の質問に対して、高市首相は「非核三原則」の見直しに言及しました。核兵器は持たず・造らず・持ち込まさずの三原則は国会決議を経て、連綿と引き継がれてきています。長崎の過去の悲惨さと首相の発言に大いに違和感を覚えました。戦後、80年が続いてきたことは、驚くべきことです。ウクライナ、ガザなどで戦争が終結しない現実があります。世界で唯一の原子爆弾の被爆国として「非核三原則」を堅持し、これからも戦後が続くことを願っている。 午前11時原爆資料館から原爆爆心地を経由し、路面電車にて長崎駅に旅程を進めた。平和記念公園などの滞在時間：約2時間。

「久留米シティプラザ」について

11月20日（木）午前9時15分、宿泊ホテル出発、徒歩にて久留米シティプラザに向かう。施設内のスタジオを利用して概要説明を受けた。シティプラザの位置づけは市民会館の老朽化に伴う建て替え、医療・高等教育機関の学会等の受け皿となる施設の不足、ダイエー・井筒屋の閉店による、中市街地の求心力の低下などの背景があり、ホール機能とコンベンション機能を持った施設を中心市街地に整備し、賑わい創出により中心市街地の活性化を図る、整備指針を示した。シティプラザの基本理念は「賑わいと憩いが調和する文化・活力の創造区間」そ

して基本機能は「文化芸術振興の拠点」「広域交流促進の拠点」「賑わい交流の拠点」として、中核都市久留米の求心力を象徴するランドマーク施設とした。

事業費は８番街区（市街地再開発事業）と９番街区（市直轄事業）総額１７７億円で国庫補助金・合併特例債等の補助財源を考慮し実質負担事業費は５１億円の説明を受けた。説明を受ける中で、特筆すべきは組織体制と私は感じた。市長直轄の文化芸術担当部長の所管に令和７年４月より、文化振興課が加わり、本庁からシティプラザに移転しています。行政職員１５名、専門スタッフ２６名等の５課総勢４９名の職員配置です。市長のシティプラザに対する意気込みを感じました。説明の後、施設の概要を見学しました。素晴らしい施設である。ザ・グランドホールが都合により見学出来なかったのが残念でした。多くの文化芸術振興事業の紹介を受けた、併せて、まちなかの賑わい創出の現状の紹介も受けた。

施設稼働率、市民利用の増加、来場者数の推移、収支状況等を見ても施設の有用性が理解できた。シティプラザの成果も文化芸術の拠点・市民会館代替え施設としての役割発揮、ＭＩＣＥ開催数・参加者の増加、まちの賑わいや地域経済への貢献などが挙げられていた。また、シティプラザの課題も文化芸術の充実の課題・施設運営及び経営面の課題・運営体制面の課題などの説明を受けた。本市も同様に文化施設等の老朽化に伴う更新の問題が喫緊の案件として提起されており、今回の視察は有意義であった。午前１１時３０分、久留米シティプラザを後にした。

以　上

(様式2)

別紙

視 察 報 告 書

令和 7 年 1 2 月 1 日

鳥取市議会議長 様

鳥取市議会 会派新生

加藤 茂樹 ⑩

令和7年11月18日から令和7年11月20日まで鳥取市議会 会派新生の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

☆令和7年11月18日（火曜日）

〒840-8501

佐賀県佐賀市栄町1-1（TEL0952-40-7310）

佐賀市議会

*概要

- ・人口 225,576人
- ・世帯 105,584世帯
- ・面積 431.81K㎡

*調査事項

◇スーパーアプリについて

・令和4年7月に佐賀市スマートシティ宣言され、市民サービス向上と地域課題解決のため、一つのアプリに複数の行政サービス機能を統合した「佐賀市スーパーアプリ」を開発され、2年で72,000件のダウンロードとのことでした。

★色々話をお聞きしましたが、2年で人口の約3分の1の市民がアプリをダウンロードしているのはすごいと思いました。また、一つのアプリにほぼ全ての機能を兼ね備えているからこそと思いました。また、職員の働き方改革にも繋がっているとのことでした。素晴らしい取り組みであると感じました。

☆令和 7 年 1 1 月 1 9 日（水曜日）

〒 8 5 2 - 8 1 1 7

長崎県長崎市平野町 7 番 8 号（TEL095-844-1231）

長崎原爆資料館

*** 概要**

- ・ 人口 3 8 3 , 4 1 8 人
- ・ 世帯 1 8 6 , 1 4 0 世帯
- ・ 面積 4 0 5 . 9 K m²

*** 調査事項**

◇長崎原爆資料館について

・長崎原爆資料館は、長崎市への原子爆弾投下に関する資料を取り扱った長崎市立の資料館である。

・爆心地を臨む高台に位置し、地上 2 階・地下 2 階からなる。設計は久米設計が行なった。爆心地周辺の景観を害さないよう設計したため、地下部分が有効活用されており、屋上部分は庭園化されている。玄関は地下 1 階。展示スペースは地下 2 階に設けられており（ただし映像室は地下 1 階部分）、入館者はらせん状の通路を下っていく。地下 1 階より上には、平和関係のイベントで活用されることが多いホールや図書室、長崎市の事務室があります。

・「1945年8月9日」「原爆による被害の実相」「核兵器のない世界を目指して」などのテーマに沿って、資料、写真、解説パネルなどが展示されている。館内には、原爆投下で時が止まったままの「11:02 の時計」に始まり、折れ曲がった工場の鉄骨、爆心地側の部分が熱線により焼けた橋げたなど、原子爆弾によって破壊された建物の一部が移設されている。熱線で溶解した遺物などの被爆資料を展示し、一部の資料には手で触ることができるようにしてあり、原子爆弾の悲惨さ、凄惨さを伝える。長崎型原爆とも呼ばれる「ファットマン」などの模型も展示されています。

★原子爆弾による被害者数は、死者 73,884 人。負傷者 74,909 人と非常に多く、
かろうじて生き残った人々も、心と体に大きな痛手を受け、多くの被爆者がいまなお苦しんでおられるとのことであり、原爆の恐ろしさを改めて感じました。

☆令和7年11月20日（木曜日）

〒830-0031

福岡県久留米市六ツ門町8番地1（TEL0942-36-3000）

久留米シティプラザについて

＊概要

- ・人口 299,357人
- ・世帯 144,551世帯
- ・面積 229.96K㎡

＊調査事項

◇久留米シティプラザについて

★体調不良のため、参加できませんでした。

視 察 報 告 書

令和7年12月4日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 会派新生

魚 崎 勇

令和7年11月18日から令和7年11月20日まで鳥取市議会 会派新生の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

令和7年11月18日（火）

佐賀県佐賀市議会

佐賀市の概要

- ・ 人 口：225,700 人（令和7年3月末現在）
- ・ 世帯数：104,772 世帯
- ・ 予 算：約 1,132 億円（一般会計）

佐賀市公式スーパーアプリについて

コンセプト

ICT の最新技術を効果的に日常に取り込んで、社会が人に合わせる仕組みを創り出し、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させ、誰もが「幸せである」と実感できる佐賀市を創造する。

背景

人口減少を見据えた効率的、効果的新しい革新が必要。そこで、AI等の最新技術とデータを活用したまちを目指し、令和4年7月『スマート・ローカル！SAGACITY』を宣言。

概要

- ・ 市民サービス DX
佐賀市公式スーパーアプリ、オンライン申請
- ・ 防災 DX
災害・防災情報のデジタル化、ドローン・スマホを活用した災害復旧
- ・ 子育て・教育 DX
子育て情報・教育現場のデジタル化、オンライン化
位置情報システム等を活用した見守り
- ・ 産業 DX
ICT を活用した経済 DX、AI・IoT等を活用したスマート農林水産業

スーパーアプリの内容

- ・あらゆるサービスを1つのアプリで
 - デジタル市民証
 - ゴミカレンダー
 - デジタル図書館カード
 - 天気情報
 - 電子申請
 - 災害防災ミニアプリ
 - トピックタウン
 - 子育てナビ
 - 学校出欠連絡ミニアプリ
 - 施設予約
 - 観光アプリ

実績・効果

- ・2年4か月で8万人 DL 突破
- ・市民証作成 2万人突破
- ・月間約8万アクセス
- ・外部評価で7タイトル獲得
 - デジタル・コンテンツ・オブ・ジ・イヤー'23リージョナル賞
 - 日本DX大賞2024行政機関・公的機関部門 優秀賞
 - マニフェスト大賞2024特別賞
 - 全国シェアリングシティ大賞2024特別賞 2025優秀賞
 - 2025年度グッドデザイン賞
 - プラチナ大賞2025 優秀賞

・市民の意見

- 「ごみの日を前日と当日の知らせで助かる」
- 「市役所の窓口待ちの様子が知られて感動」
- 「新しい機能が出てくるので楽しみ」
- 「オンラインで出来る手続きを増やして」
- 「ホーム画面の並べ替え機能があれば便利」
- 「地域のイベントに参加しやすくなった」

所感

佐賀市の1つのアプリで、あらゆるサービスを受けられるシステムはいい取り組みである。

市民の意見でもあるように、かなり受け入れられて期待されている。
ただ、ほかのアプリも並行して運用しているので、整理が必要と思われた。

令和7年11月19日（水）

長崎県長崎市議会
長崎市の概要

- ・ 人 口：383,418人（令和7年10月1日現在）
- ・ 世帯数：186,140世帯
- ・ 予 算：約2,413億円（一般会計）

長崎平和公園・原爆資料館について

目的

- ・ 戦後80年となる、広島とともに原爆投下を受けた記録を後世に残し、核のない平和を世界に訴える。

取り組み

1. 平和公園

- ・ 平和記念像 :彫刻家・北村西望氏の作品、右手は原爆の脅威を、左手は平和を象徴し、閉じた目は戦争犠牲者の冥福を祈っている。
- ・ 平和の泉 :水を求めながら亡くなった被爆者の冥福を祈る場所。
刻々と変化する水形は、平和のはとの羽ばたきを形取、つるの港といわれる長崎港のつるを象徴している。
- ・ 原爆落下中心地：1945年（昭和20年）8月9日午前11時02分、
広島につぐ人類史上2番目の原爆がこの中心地の上空
500mでさく裂し、一瞬のうちに多くの尊い命を奪った。

2. 長崎原爆資料館

原爆投下直後の被爆の状況写真や品々が展示されている。
被爆体験講和などを行う平和学習室やビデオルームなどがある。

所感

ともすれば、広島が注目を得がちであるが、長崎も悲惨な経験をしている。
あらためて、核兵器の恐ろしさを感じた。

投下した側からは、戦争を終結させるためと言うが、敗戦が確実となっている
状況からすれば、対人核実験としか思えなかった。

令和7年11月20日（木）

福岡県久留米市議会

久留米市の概要

- ・ 人 口： 299,357 人（令和7年10月1日現在）
- ・ 世帯数： 144,551 世帯
- ・ 予 算： 約 1,593 億円（一般会計）

久留米シティプラザの取り組みについて

1. 整備の背景

- ・ 施設設備が老朽化し、話題性のある公演の開催が難しい市民会館の建て替えの必要性があった。
- ・ 久留米市は医療・高等教育機関が集積しながらも、学会等の開催施設が不足していた。
- ・ H17ダイエー、H21久留米井筒屋の閉店など、中心市街地の求心力が著しく低下していた。

2. 整備の方向性

- ・ 基本方針：課題のホール機能と、コンベンション機能を併せ持った文化・交流施設を中心市街地に整備し、文化芸術の振興と賑わい創出による中心市街地の活性化を図る。

- ・ 施設機能

ホール機能

創造機能

交流機能

コンベンション機能

3. 事業スケジュール

- ・ 基本設計：H24年 5月～同年10月
- ・ 実施設計：H25年 1月～同年 7月
- ・ 工事入札：H25年 8月～同年 9月
- ・ 工事契約：H25年 8月～同年 9月
- ・ 工 事：H25年10月～H28年 1月
- ・ 開 館：H28年 4月

4. 整備費

- ・ 全体事業費：177.0億円
- ・ 内市負担額： 51.0億円

5. 施設概要

- ・ ザ・グランドホール：1, 514席
- ・ 久留米座： 399席
- ・ Cボックス： 144席
- ・ 展示室： 430m²
- ・ 会議室：（大）530m² （中）240m² （小）140m²

- ・長盛（和室）：8帖×3間
- ・スタジオ：2室（各61㎡）音楽練習用
- ：4室（各105㎡）バレエ・ダンス用
- ・六角堂広場：1,300㎡ 膜屋根 全天候型
- ・カタチの森：多世代交流スペース
- ・六ツ門テラス：緑に満ちた憩いとやすらぎのスペース

6. 事業運営

- ・文化芸術振興事業（自主提携事業）
- ・〃（貸館事業）
- ・まちなかの賑わい創出（六角堂広場）
- ・〃（商店街連携）
- ・広域交流の促進
- ・広報活動・利用者サービス向上
- ・組織体制：行政職員 15名
 専門職員 26名
 任期職員 8名
 業務委託 10名
 計 59名

7. 稼働率

	目 標	R 6
・ザ・グランドホール：	88%	75%
・久留米座：	73%	58%
・Cボックス：	65%	47%
・六角堂広場：	70%	58%
・展示室：	75%	59%
・会議室：	90%	95%
・スタジオ：	65%	69%
・長盛（和室）：	50%	58%

8. 収支状況（R 6）

	施設使用料	駐車場	チケット・補助金	計
収 入	106,024	25,160	33,505	164,689
	施設維持管理	事業費	人件費	計
支 出	553,374	24,888	243,770	<u>822,032</u>
収 支				△657,343

9. 課 題

- ・鑑賞者の掘り起こし・育成、普及活動の充実
- ・地域資源を生かした文化の創造・発信の強化
- ・財政負担の縮小
- ・施設稼働率の向上
- ・関係団体との連携強化
- ・専門人材の育成・確保
- ・市組織、久留米文化振興会との連携強化

所感

施設を久留米市直轄事業区間と既存の民間事業者区間を組み合わせ、うまく事業を計画、実現している。それぞれの利害の調整に苦慮したことが窺われた。

また、一つのホール、ルームを多目的に使用するのではなく、それぞれを単独、あるいは組み合わせで使用できるよう、デザインされていた。」

鳥取市の施設計画に非常に参考となった。

視 察 報 告 書（会派視察用）

令和7年12月1日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 会派 新生
西 尾 彰 仁

令和7年11月18日（火）から令和7年11月20日（木）まで鳥取市議会会派新生の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：主な視察内容と感想等

1. 佐賀市スーパーアプリについて

（佐賀県佐賀市）

佐賀市は全国に先立ち「日本一便利なまち」の実現を目標に掲げられた。行政手続きでの長時間待ち、近年多い災害情報伝達、地域経済やコミュニティの弱体化などの全国共通の課題に直面し、スマートフォンの活用を考えた。スマートフォンでの市民サービス向上と地域課題解決を図るため、ひとつのアプリに複数の行政サービスを統合した「佐賀市公式スーパーアプリ」を開発され令和5年6月に全国に先駆け正式リリースされた。このスーパーアプリは、様々なアプリ機能を一つのアプリのプラットフォームで共有でき、行政、市民、企業とで共創してサービスを育てる全国初の試みである。このプラットフォームに掲載されているサービスは、①ゴミ出し情報②電子申請③図書館サービス④防災・緊急情報⑤施設予約⑥地域情報共有（地域マップ&掲示板）⑦子育て支援⑧行政手続きの案内⑨窓口混雑情報⑩市公式SNS連携⑪イベント・観光情報⑫学校欠席連絡⑬デジタル市民証（佐賀市民証/マイナンバーカードと連携）と一つのアプリのプラットフォームに13もの機能アプリが入っており、大変便利」と感じた。アプリの開発には約3億5千万円かかり年間約3千5百万円のランニングコストがかかるとのことだが、本市でも、格安で当アプリのプラットフォームを導入して活用すれば、住民利便性は基より、住民負担軽減、職員負担軽減（DXによる業務効率化）が図られると考えられる。現在、佐賀市の3人に1人がアプリをダウンロードして利用しており、月間約8万件のアクセスがあり、年々増加しているとのことである。市民の暮らしを豊かにする良い手法であると感じた。

2. 平和公園・原爆資料館について

(長崎県長崎市)

長崎平和公園は、私は2度目の来園であるが、原爆が投下され平和の象徴として美しく、しかも市民、県民の方々のレクリエーションまた安らぎの場となっている。小中高校生、外国人の方の来園が多いと感じた。広島平和公園と長崎平和公園は、日本が世界で唯一の被爆国でそして戦争から被災しそして復興して平和の国へと世界平和を世界に訴える場としての役割を持っていると考える。長崎原爆資料館では、1945年8月19日午前11:02に長崎上空500Mで一発の原子爆弾が炸裂し、長崎の街は、壊滅状態とも言えるほどに破壊され、多くの人命も失われた。本資料館は、平成8年4月より被爆関係資料や被爆の惨状を示す写真、原爆投下までの経緯、核兵器開発の歴史、平和への希求などが展示されており、特に当時の長崎市人口24万人の内、死者約7万4千人、負傷者7万5千人と多くの犠牲者が出ている。当日は、平日の入場にもかかわらず多くの小中高校生と外国人の方の来館が多く展示を観るのも大変であったが、この資料館を訪れて原子爆弾がもたらす悲惨さを後世に伝える場であるとともに平和がいかに大切なのかを感じることができた。

3. 久留米シティプラザについて

(福岡県久留米市)

久留米シティプラザであるがこれは、ホール機能とコンベンション機能を併せ持った施設である。広域の文化、交流促進施設を市街地中心に整備し、文化芸術振興と中心市街地の活性化を図る目的で整備されており、①ホール機能②創造機能③交流機能④コンベンション機能などがある。総事業費は、177億円、内51億円が実質市費となっている。詳細な施設内容は、①グランドホール1,514席、②久留米座399席、③Cボックス144席、④展示室430㎡、⑤会議室 大530㎡、中240㎡、小140㎡、⑥和室、⑦スタジオ、⑧六角堂広場、⑨カタチの森など多様な機能を有する複合施設である。年間延べ利用者数144,711人(R6)、施設稼働率も47%~95%あり、特に会議室の利用が高いとのこと。しかし年間収支をみると令和6年度で収入164,689千円、支出243,770千円で赤字657,343千円と大きな赤字となっている。これは、当施設が市直営管理で職員も49人いるとのことであった。令和元年の経済波及効果は14億5千万円また市内ホテル等の宿泊者数も81%上昇、地価も31%~70.5%上昇したとなっている。ネーミングライツ料は、行っていない。当市は、財政力が高いが直営管理はどうなのか疑問が残る。鳥取市ではやはり指定管理を導入し、ネーミングライツも活用した方が良いのではと感じた。ハード面でのコンセプトについては、大変参考になった。

視 察 報 告 書

令和7年11月25日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 会派新生
吉野 恭介

令和7年11月18～20日、会派の行政視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

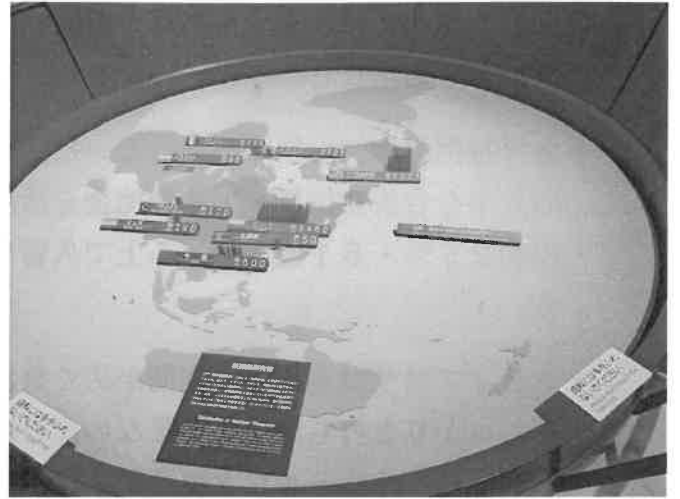
1. 視察（調査）の概要

日程	視察先	場所	調査項目	担当者
11/18 (火)	佐賀市議会	佐賀市	スーパーアプリについて	事務局：高田・西坂 DX推進課：菅・内田
11/19 (水)	平和公園 長崎原爆資料館	長崎市	平和公園 原爆資料館について	なし 一般での見学
11/20 (木)	久留米市議会 (久留米シティプラザ)	久留米市	久留米シティプラザについて	事務局：津山 シティプラザ：陣内・〇

2. 感想

2・1. 佐賀市議会「スーパーアプリについて」

- ・市制施行が明治22年と鳥取市と同じこと、江戸時代に佐賀藩に鳥取藩の姫が嫁いだ縁や、15年前にDX推進課の菅室長が鳥取市に芝の関係で鳥取市を来庁されていたり、国保の研修で鳥取市職員と交流があった事など、とても鳥取市を身近に感じてくれていた。とても友好的な意見交換の場となった。
- ・市民の声、操作で迷わない、年4回のバージョンアップ・・・など評価され外部評価として日本DX大賞2024など7つの全国的なタイトルを受賞されていた。鳥取市のまちづくりソフトとして導入できない物か。
- ・全国の自治体で、苦勞して良い仕組みを作っている。その苦勞を同じように各自治体ができるのは国レベルで見たときには生産性の向上を妨げている事になる。プラットフォームが同じくしアプリケーションの部分で各自治体の特徴を出すような動きをやっているのだろうか。「おらが村」的な発想になっては発展がない。鳥取市についても防災だけでなくまちづくりのなどの観点で大きく見ていくべきと感じた。そのスタンスを佐賀市のDX課は「ばら売り（必要な機能のみ一部利用）も可能であり歓迎する」という表現で他自治体とのマッチングを心待ちしているように感じた。

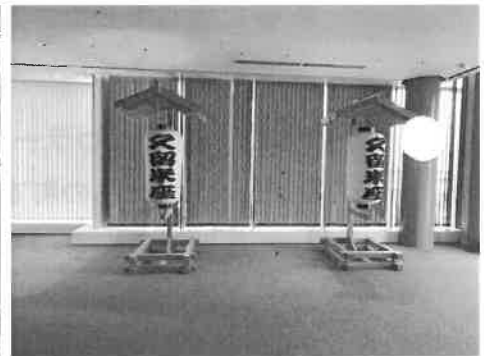
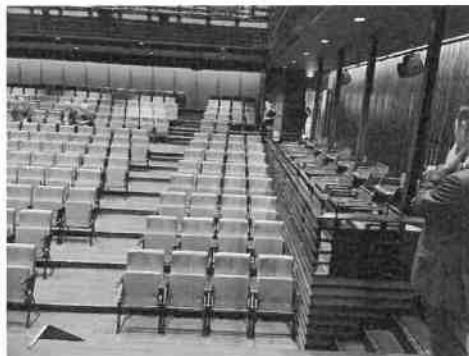
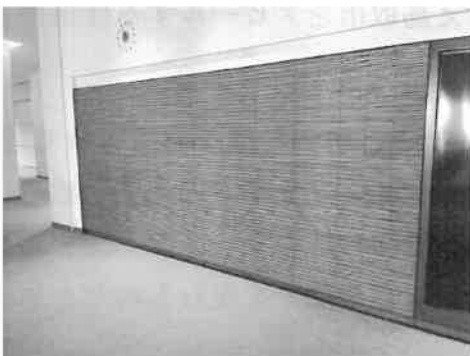


2・3. 久留米市「シティプラザについて」

- ・鳥取市は久留米市に比べ人口3／5、面積3．3倍であり、人口密度として考えると5．5倍の差がある。同じ事業を施行しても、人の流れや民力には差が生じてくる人口密度の影響を感じました。この点をプラスの特徴だと逆手に考え鳥取市をアピールする仕掛けとしてもっと考えたいと感じた。
- ・「実は、とんこつラーメン発祥の地・全国有数の焼き鳥」だと、町の特徴を自信もって言われ、自分たちの町を肯定し誇りを持って打ち出していくシティプライドの浸透を感じた。当地でとんこつラーメンや焼き鳥を食したが、これが発祥の地のラーメン・焼き鳥かと思えば、味も格別に感じられ、少々高価でも消費に繋がり経済効果を生むものだった。
- ・医師数が人口あたり全国一でありながら、また大学医学部や大学病院など大規模な総合病院がありながら、その特徴を発揮するための大規模な学会を開催する場所がなかった。その対策として、コンベンション機能・広域交流・賑わい交流の拠点としてシティプラザの建設に取り組んでいます。町の特徴を将来さらに強味とする方針でありコンセプトが素晴らしいと感じました。併せて、久留米座や和室など非日常の文化芸術分野、対局にある六角堂広場やカタチの森・六ツ門テラスなど日常の中心市街地、両方の活性化に繋げる拠点を同時に盛り込んだ所にも感心しました。MICEの集客として26000人の現地参加となった結果に繋がっている。
- ・日常の賑わい拠点として六角堂広場があるが、屋根付きの全天候型にしてイベント開催を

安定化させている点、まちなか遊園地や商店街との連携・情報共有・発信などソフト的な取組みも素晴らしい賑わいづくりだと感じた。

- ・合併特例債の使用期限が迫っていた状況を追い風にして短期間で事業完成された点、費用の大半を合併特例債・国庫補助金を活用された事も地元負担を軽減化（全費用177億円の約29%・51億円）する上で久留米市民にとっては大変良かったのではないかと思う。
 - ・シティプラザは全体的に空間が広く贅沢な感じがした。非日常を味わうためのコンセプトをしっかりと打ち出した結果なのだと理解した。床面の木材使用、和室の畳使用、歌舞伎が演じられるホールなど要所に久留米緋、漆器、城島瓦などが装飾として随所に取り込まれていた。日本の伝統文化を継承する意欲を強く感じた。
 - ・PFI等の手法が中心になって来て指定管理運営が一般的になりつつある。本施設は市の直営に5年間は拘るという事だが、指定管理は一定期間で経営者が代わる事にもなり、デメリットが大きいと考えたのだろう。直営は人件費の負担が大きいと思うが、自分たちの想いは反映させやすい。そこら辺のバランスが今後の課題だと考える。
 - ・施設の成果として単独収支は6億5千7百万円の赤字だが、全体的な経済波及効果としては14億5千万円という成果を出している。差引の効果7億9千万円と考えて良いと思う。また来場者数が52万人と旧施設時代の1.7倍、中心市街地の空き店舗率が18.0%⇒15.5%と2.5ポイント改善、ホテルの宿泊数も43.4万人⇒46.9万人と8.1%増と成果は大きかったと考える。継続する事を願いました。
- また、市民の評価・満足度も概ね好評であり、喜んで頂いている施設となり、コンセプトを明確にして取組んだ成果だと思った。





3. 研修内容・質疑

3・1. 佐賀市議会「スーパーアプリについて」

・ポインは2つ、

- ① スマートフォンだけで何とかするという事ではなく、きっかけにして活用する。
- ② 横展開ができるという事。国と同じ考え。

《導入の背景・目的》

Q1：学校出欠連絡ミニアプリ「れんらくくん」の導入校数35は？

A1：小中学校で53校。なので導入は66%。

導入していない理由は、コロナ期に体温を測る仕組みが学校側にあったが、データを一元化するという考えが市で統一できていなかった。保護者には喜んでもらえている。入手データを国や県へ報告する段階で何度も加工が必要となり、その手間をこのアプリで削除できた。教員の働き方改革に寄与できている。

35校で停滞しているのは、放課後児童クラブ等への活用の点の拡張を待っていたり、導入校の様子をみている。現実的に「全児童生徒の様子がどうせ深く見れないのなら、表面的でも全体把握ができて、データにより当たりを付けて詳細対応に入っていく事ができる」という点では大変有効だという考えに立てるという意見を現場の先生から言って頂いている。

Q2：不登校対策に活用できているのか？

A2：まだ出来ていない。このアプリだけでは見れない。出欠情報と併せて、他に子どものアンケート・親のアンケート情報などと併せて判断していく事になる。このアンケートは紙ベースで教頭先生の保管であり、応用展開ができない現状。デジタルで遣り取りし分析して解決の糸口をつかみたい。今後の課題だがそのための準備は整っている。

Q3：まちづくりの課題として、コミュニティ・自治会加入率の向上という課題があるが、

それらの対策に寄与できるアプリなのか？スマホの所持率も併せて尋ねる？

A 3 : 佐賀市のスマホの所持率は調べていないが、総務省データでは約 9 割の世帯所持率、個人所持率は 7 割位か。世帯に 1 台あれば普及できると考え推進している。

実際にこれを地域でどう使っていくかという所は、32 校区中 3 校区が積極的に使用して貰い始めた所。まち協の担当者と一緒に頑張って拡充させていっている所。ラインを使っている所があるが、ラインでは過去のデータは見られない。グループに入らないと見られない。途中から入っても見れない。スーパーアプリは過去データが見られる点が良い。データさえあれば閲覧する困難さは今後 AI の活用で飛躍的に改善できる期待大。操作が面倒、新しい事を覚えるのは抵抗あり。という事で普及の障害となっている。

自治会加入率は 80 % 弱で鳥取市と比べて高いかもしれないが、特にマンションの加入が増えており情報入手が困難になって来ている、との民生委さんから聞いている。このアプリをもって解決できるという事ではないが、歯止めにはなるのではないかな。

Q 4 : この事業のコストを教えて？

A 4 : R 5 年から導入して、そのイニシャルコスト合計は 3.6 億円。その内、市の一般財源は 1 億円、後の 2.6 億円は国庫補助金。ただ、これをベースにして横展開する場合はこれほど必要なく、機能に応じたミニアプリで対応できる。ミニアプリが 10 分の 1 位でできるので約 3 千万円。イニシャルコスト 5 千万円位から始めたらミニアプリは 5 百万円位か。イニシャルでソフトを造り込めば造り込むほどプラス 1 千万円とかになる。まとめて取り組んだ方が良いのは、国のデジタル交付金の運用期間が大体 1 年。なので 1 年以内に運用まで持っていく事が良い。行政側で案を作っても議会側で課題指摘等で遅くなる。ことも考慮必要。

スーパーアプリのレベル上がれば国補助率も上昇する。例えば、データの活用が一般化できる（汎用性を持たせる）と国補助が $1/2 \Rightarrow 2/3$ 補助となる。

ラインと連携させチャット機能を持たせている。複雑な機能を持たせなければ 3 百万円位。市ホームページとも連携させているが、階層が深くなりデメリットもある。この点も AI が解決してくれると期待している。ただ、防災など緊急性を要する問いに対しては、問いの緊急性を判断しそのリンクへ繋がられる。

Q 5 : 農林水産業への展開は？

A 5 : まだ農林水産業とは繋げていない。農業に限らず、ドローンが発達してきていて、農業や交通ではバスの位置情報を見れるようにしている。農薬散布の日連絡情報や回覧物の配布など、リアルタイム情報として提供できるようになる。

そのために、スーパーアプリにその位置情報データを直接飛ばすのではなく、後ろにデータ連携基板（データを溜めたり、使う場所）に入れておき、ドローンの電波をそこに飛ばして、そこからアプリに飛ばしたり、ラインに飛ばしたり、ホームページ

に飛ばす様な使い方になる。

そんな仕組みを佐賀市は作っている。費用対効果を考えながら機能追加していく考え。

Q 6 : 利用者の費用負担・精神的な負担はあるのか？

A 6 : 市民の費用負担は通信料のみ。市の介在もあり、オプティムに繋いでいる間の通信料のみ。精神的な負担はデバイドの課題。イベントの事業に費用対効果、本人確認、現地に行き行って割引券を配布するなど不要となるなど、メリット・デメリットあるが差引はトントンという感じ。個人情報の提供については、メールアドレス、スーパーアプリ、マイナンバーカード情報が必要となる。提供できない場合は個人を特定出来ず、使用できない。それ以上の個人情報（障がいの有無、家族構成・・・）は今の所不要。氏名・年齢・性別・程度。福祉相談や子育て相談などについては、予めこうした情報が必要になる事を開示し了承頂いた方のみ相談を受ける方法で対応している。

Q 7 : スーパーアプリは議員間等でも使用しているのか？

A 7 : そうした使い方はしていない。今使っているのは、まちづくりのみ。飽くまで、市民との繋がり（市民と行政、企業と行政）の遣り取りで行っている。行政内部はラインワークスや内部ソフトで行っている。

Q 8 : 防災でマイタイムラインまで深堀しているか？

A 8 : 今、取り掛かろうとしている所。まずは備蓄管理から始める予定。マイタイムラインは民生委員さんの情報と関係してくるので慎重に検討していく。

避難所情報・避難者情報に関しては、避難者の避難したか避難していないか福祉の観点で検討していく。鳥取市の防災アプリにはマイタイムラインがあるが、スーパーアプリとの繋がり可能。

課題は今使っているアプリと全くデータのやり取りができないアプリが結構ある。国の認識はそうしたアプリは少ないとの認識だが、実際はそうではない。データのやり取りから繋げようとする、そのソフトの企業から改修費用を要求される。その点が普及の妨げとなる。ただ、最近のシステムはその点が改善されているので遣り易い。そんな事ができないシステムは庁内には入れないよう広報している。

Q 9 : 民生委員はプラットフォームはないか？

A 9 : 今の所ない。紙ベースです。

3・2. 長崎市「原爆資料館について」

- ・海外からの来館者に向けた多言語対応にも配慮されていた
- ・路面電車やタクシーなど外国人が本当に多いと感じた。外国人は東洋系より西洋人の多さが目立った。

- ・今年、原爆投下後80年を迎え8月9日の長崎の原爆の日に発せられた長崎市長・鈴木史郎氏の平和宣言に目が止まりました。武力には武力を、対立と分断の悪循環が将来、核戦争に突き進んでしまうという危機感を素直に共有したいと思いました。
- ・鳥取市の幼稚園児、小学校児童から贈られた千羽鶴が玄関に飾ってあり、嬉しく、この資料館を身近な存在に感じた。
- ・原爆投下中心の地（広場）では慰霊碑に献花やガイドさんの説明に耳を傾けている多くの小学生たちの姿があった。

3・3. 久留米市「シティプラザについて」

事前に久留米市に質疑連絡していたので、その内容に沿って説明を受けた。その内容を下記する。

《施設整備の経緯・概要》

Q1：シティプラザ整備の基本的な目的や、立地を中心市街地にした背景は？

A1：①施設が老朽化し話題性ある鑑賞講演が開催できない ②学会等コンベンション機能持つ施設不足 ③中心市街地の求心力が減った・・・それぞれ対策

Q2：コンセプトは？

A2：基本理念として①文化芸術振興の拠点 ②広域交流促進の拠点 ③賑わい交流の拠点

Q3：中心市街地の活性化にどのような効果があった？

A3：効果を項目ごとに下記報告する。

- ① 年間来場者数の増加：旧市民会館・旧六角堂広場の合計31万人⇒52万人
- ② 経済波及効果：年間14.5億円
- ③ 中心市街地の空き店舗率：18%⇒15.5%
- ④ 市内ホテルの宿泊数：43.4⇒46.9万人
- ⑤ 土地の価値（地価）上昇：日吉町17.1万円⇒29.5万円（+70.5%）
六ッ門町11.4万円⇒15.2万円（+31.0%）

《財政面・運営面》

Q4：建設費の総額と財源構成（市費・国補助・特例債など）を教えて？

A4：事業費総額177.0億円（市負担額51億円、国庫補助金41億円、合併特例債125.8億円）

Q5：収支が6.6億円の赤字だが、ネーミングライツなどによる具体的な収支改善策は？

A5：開館当初、ネーミングライツを検討し情報収集もしたが、効果なしと判断した。が、引き続き検討していく。

Q6：14.5億円の経済波及効果の算出根拠は？

A 6 : H 2 8 年の経済効果の数値を基準に、単価は変えずに客数をカウントし金額に換算した結果で算出している。現在物価が大きく変動しているのでその事を加味して再計算する必要があると考えている。

Q 7 : 久留米市の人口集約に対する考えは？本施設は人口転出の歯止めにはならないか？

A 7 : 県南地域から久留米市に就労で通勤しているので日中の移動は多い。なので県南地域からの人口の流入はあるが、学生や若者は更に福岡市へ流出している。本施設は文化施設であり、その部分だけなら、大都市に行かなくても豊かさを享受できる。が、一番人の流れが大きいのは働き場所という感じがしている。その観点ではやはり大都市の福岡市の魅力が大きいと思うとの久留米市の感想だった。

Q 8 : 寄付を募っているがこれは財政上の改善策としての継続事業なのか、単年度のみか？

A 8 : ネットでの寄付は開館前から募っている。開館と併せて5千人集まるだろうと思っていたが、結果はまだまだ不足。継続する。

Q 9 : 地権者との関係は？なぜ久留米市は指定管理ではなく直営を選択したか？

A 9 : 全て市が買収できていれば市の直営をしたが、従来の地権者が八幡管理組合を作り運営している。「開館後最初の5年は建物の評価を受ける期間なので市の直営でしっかりやりたい」との市長の想いが反映されたとの説明だった。

単純事業は指定管理でも良いが、文化芸術の管理は市の考えや想いを反映させたい分野。容易に指定管理者任せにはしたくなかった。

Q 1 0 : 参考にした施設はあるのか？

A 1 0 : プロポーザルで設計会社を選定し、決定したその設計会社と協議する中で参考にする施設を決めて行った。ただ、運営にあたって料金設定はどうするかという話になった時に旧施設の料金設定を基準にして考えているのでその辺りが協議内容となる

Q 1 1 : 商店街側にも相乗効果が出ているのか？

A 1 1 : これまで井筒屋が倒産しその前はダイエーが倒産した。その時は本当に人通りがなくなった経験を経ての今。歩行調査やゆめタウンが近隣にある条件の下、ここにこの施設は必要不可欠であり一定の効果は間違いなく出ていると評価。以前の繊維業・ファッションから食中心に人の流れは変わってきている実感を持っている。

《利用状況・市民の評価》

Q 1 2 : 年間来場者数やホール稼働率の推移を教えて？

A 1 2 : 来場者数は増加傾向、R 2 年 1 2 万人⇒R 3 年 1 6 万人⇒R 4 年 3 5 万人⇒R 5 年 4 6 万人⇒R 6 年 5 6 万人

視 察 報 告 書

令和 7 年 11 月 26 日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 会派 新生
中山 明保

令和 7 年 11 月 18 日から令和 7 年 11 月 20 日まで鳥取市議会
会派 新生の視察（調査）に参加したので、その結果を下記の
通り報告します。

記

（所見等）

（１） 視察先：佐賀市議会

項目：スーパーアプリについて

所見・佐賀市は、坂井市長（２期目）のリーダーシップ
のもと、令和 4 年 3 月「佐賀市 DX 推進方針」を
策定し、デジタルを活用したまちづくりを推進し
ています。

令和 4 年 7 月には、スマート・ローカル！
SAGACITY を立ち上げ（ちなみに、sagacity
とは、「聡明」と言う意味もあるそうです。）

このアプリは、

＊市民サービス DX

＊子育て・教育 DX

＊防災 DX

＊産業 DX

の 4 つの重点分野と重点取組でできている。

まだ発展途中ではあるが、今後改良が期待され
横展開として、我が鳥取市でも検討してはどう
か？と思われる。

(2) 視察先：長崎原爆資料館

項目：原爆資料館について

所見・1945年8月9日、午前11時2分、長崎上空で一発の原子爆弾が炸裂しました。

長崎原爆資料館は、長崎市の原爆被爆50周年事業の一つとして、1996(平成8)年4月にそれまで被爆資料を展示していた長崎国際文化会館を建て替えて開館されました。

当館では、被爆資料や、被爆の惨状を示す写真などの展示をはじめ、原爆が投下されるに至った経過、核兵器開発の歴史、平和希求などのストーリー性のある展示を行っています。(長崎原爆資料館資料より)

上記の通り、分かりやすく、平和学習には、とても、勉強になり、小学校、中学校の修学旅行生でいっぱいでした。ちなみに、鳥取市立美保南小学校・遷喬小学校の子どもたちの千羽鶴を見て感激しました。

(3) 視察先：久留米市議会

項目：久留米シテイプラザについて

所見・久留米市シテイプラザは合併特例債を活用され建設された。構造的には、秋田の複合施設と同じく大変参考になりました。今後、我が鳥取市の鳥取駅周辺開発及び複合文化施設に活かしたいと考えます。

以上 視察報告とします。

視 察 報 告 書

令和 7 年 11 月 22 日

鳥取市議会議長 星見 健蔵 様

鳥取市議会 会派新生

岡田信俊

令和 7 年 11 月 18 日から 11 月 20 日まで鳥取市議会 会派新生の視察（調査）に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

佐賀市（18 日）

○「佐賀市公式スーパーアプリについて」

佐賀市は 2022 年（令和 4 年 3 月に「佐賀市 DX 推進方針」を策定され、デジタルを活用したまちづくりを推進されている。住民・地域・企業・行政が一体となって、佐賀市版 DX をさらに強力に推進し、地域経済の活性化を図り、暮らしや生活がより便利に、より快適に生活に合わせた多様で柔軟な働き方ができるような「スマート・ローカル！SAGACITY」の実現にとりくんでいくことを宣言されている。

そして 2022 年 7 月に「スマートシティ宣言」を行い「日本一便利なまち」に実現を目標に掲げられた。行政手続きでの長時間待ち、毎年のように発生する災害時情報の伝達、地域経済やコミュニティの弱体化など、全国共通の課題に直面し、スマートフォンの活用に着目された。そこで、市民サービスの向上と地域課題解決のため、一つのアプリに複数の行政サービス機能を統合した「佐賀市スーパーアプリ」を開発し 2023 年（令和 5 年）に β 版公開、6 月に正式リリースされました。このスーパーアプリは、市民・企業・地域・行政をスマートフォンでつなぐデジタルな「市民の手のひら版」として位置付けられ、行政だけでなく市民や企業と共創しながらサービスを育てるプラットフォームを目指しておられる。政策目的として、住民利便性の向上や住民負担軽減、職員負担軽減（DX による業務効率化）、さらにはデジタルデバインド対策として高齢者等へのサポートも重視されている。実際、市はアプリケーションの操作講習会を各地公民館で開催するなど、デジタルが苦手な層への支援にも取り組んでおられる。

主な機能とサービス内容としては、①ゴミ出し情報、②電子申請、③図書館サービス、④防災・緊急情報、⑤施設予約、⑥地域情報共有（地域マップ&掲

示板機能を利用)、⑦子育て支援、⑧行政手続きの案内、⑨窓口混雑状況、⑩市公式 SNS 連携、⑪イベント・観光情報、⑫学校欠席連絡、⑬デジタル市民(佐賀)証、である。これら、あらゆる佐賀市のサービスを1つのアプリで使える「佐賀市公式スーパーアプリ」であり、市民が「わかる」「使える」ものに「みんなで育てる」「職員も便利」。佐賀市と佐賀市民と、あらゆる人たちのための共通プラットフォームを目指しておられる。例として、ごみ出し情報においては、「ごみ出しカレンダー」を利用し、ごみ出し日を PUSH 通知で知らせる機能の利用や、観光情報が観光客にとっての観光アプリに進化し有り難い情報となっている。

鳥取市においても、⑪学校欠席連絡に相当するものの利用はおこなわれている。しかしながら、高齢者等スマホが操作できない、持っていない市民の居られることも事実である。正直私個人も得意な分野ではなく、使いこなせるかどうか不安な面も多い。費用対効果においても考える必要があるが、今後の社会には必要不可欠なものであると強く感じた。

長崎市 (19 日)

○平和公園・原爆資料館

1945 年 8 月 9 日、午前 11 時 02 分、長崎の上空で一発の原子力爆弾が炸裂した。長崎の街はほとんどが破壊され、多くの人々の施名が奪われた。広島に次ぎ、世界で二番目の被爆都市となった。壊滅的な被害の中から復興を遂げ、「長崎を人類史上最後の被爆地に」との願いを掲げて平和行政を展開しておられる。今回視察させていただいた、平和公園と原爆資料館は、その象徴的な空間であり、追悼と学びを結びつける場所として世界中から多くに人々が訪れている。

平和公園は、爆心地北側の丘に位置し、被爆 10 年後の 1955 年に整備が始まった。公園の中心には平和記念像が立っている。北村西望氏の手による作品であり、右手は原爆の脅威を、左手は平和を象徴しており、閉じた目は犠牲者の冥福を祈る姿を現している。その足元には、原爆で亡くなった人々が渴きを訴えたことに因む平和の泉が水を湛えている。素晴らしい記念像であり、見るからに、脅威、鎮魂、追悼、希望を表わしているように感じた。

公園内の各所に、世界各国から寄贈された平和モニュメントが設置されており、平和の願いは国際社会全体の願いであると感じた。毎年 8 月 9 日には原爆犠牲者慰霊平和祈念式典が行われている。

隣接する「長崎原爆資料館」は、原爆被爆 50 周年記念事業の一つとして、1996 年 4 月に、それまで被爆資料を展示していた長崎国際文化会館を建て替えて開館した。当館では、被爆資料や被爆の惨状を示す写真などの資料展示を

はじめ、原爆が投下されるに至った経過、核兵器開発の歴史、平和希求などの展示が行われている。

改めて、犠牲者に哀悼の意を表するとともに、核兵器の怖さ、惨さ、絶対に核兵器を使ってはいけない、そんな思いを強くした。入口周辺に鳥取市の小学校から贈られた千羽鶴が飾られていた。地元、遷喬小学校の名前も見え、帰宅して学校に確認し、報告した。何とも嬉しい温かい気持ちになった。

久留米市（20日）

○「久留米シティープラザについて」

久留米市の人口は、昨年まで30万人を超えていたが今年から29万人台に減少した。面積約230km²、世帯数約143,600世帯、福岡県では福岡市、北九州市に次ぐ第3の都市である。

久留米シティープラザの整備の背景には、①施設設備が老朽化し、話題性のある鑑賞公演が開催できない市民会館の建て替えの必要性。②医療や高等教育機能が集積しながらも、学会等の受け皿となる施設が不足。③H17年ダイエー、H21年久留米井筒屋の閉店など、中心市街地の求心力が著しく低下。があった。

H23年2月発表の整備基本方針は、これまでの諸課題を補完するホール機能と、コンベンション機能を併せ持った広域の文化・交流促進の中核施設を中心市街地に整備し、文化芸術の振興とまちなかの賑わい創出による中心市街地の活性化を図るとした。

事業の整備スケジュールは、基本設計：H24年5月～10月。工事期間はH25年10月～約28か月。開館H28年4月である。整備事業費合計決算額は、約177億円。合併特例債や国庫補助金を活用して、市の実質負担額は約51億円。基本機能として、①文化芸術振興の拠点。②広域交流促進の拠点。③賑わい交流の拠点。④六ッ門地区の商業拠点。が挙げられている。

施設の概要として、①ザ・グランドホール、クラシック、オペラ、ミュージカル等に対応。1,514座席数。②久留米座、演劇に対応。399座席数。③Cボックス、リハーサルや会議、展示会に対応。144座席数。④展示室、各種展示会や見本市に対応。⑤会議室、（大・約530m²）（中・約240m²）（小・約140m²）。⑥、茶道・華道・古典伝統芸能の稽古などに対応。⑦スタジオ2部屋各61m²、同2部屋各105m²。⑧六角堂広場、膜屋根を設置した広場（約1300m²）。などである。至る所に地元の名産品である、緋、提灯などを飾り付けたり、また壁などに入れ込んだりと、落ち着いた地元のアピールにも一役買っている。大変高級な作りであることは見て取れる。

文化芸術振興事業なども多く実施しておられ、多彩なジャンルの鑑賞事業を実施しておられる。稼働率も概ね目標値をクリアしておられる。しかしながら収支状況、決算の推移としては、H28年度の収支、約マイナス7,5億円、H29年度、約6,9億円。翌年から現在（R6年度）までマイナス6億円以上が続いている。素晴らしく魅力的な取り組みであり、施設も同様であるが、少なくとも鳥取市に当てはめた考えた場合、毎年のマイナス6億円以上の収支は到底許される範囲ではない。多くを学ばせていただいたが、正直納得の行かない数値である。今後の巻き返しに期待申し上げる。

視 察 報 告 書

令和 7 年 11 月 日

鳥取市議会議員 星見 健蔵 様

鳥取市議会

会派新生 寺坂 寛夫 ㊞

令和 7 年 11 月 18 日から令和 7 年 11 月 20 日まで会派新生の行政視察に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

調査事項

◇：佐賀県佐賀市 ：令和 7 年 11 月 18 日（火）

◎ 佐賀市公式スーパーアプリについて

●人口 225,676 人（R7.10.31 現在）世帯 105,584 世帯

○背景・目的

- ・人口減少を踏まえた発想の転換が必要
- ・AI 等の最新技術とデータを活用したまちづくり
- ・R4「佐賀市 DX 推進方針」を策定
- ・R4 年 7 月「佐賀スマートシティ宣言」「スマート・ローカル！SAGACITY」

○スーパーアプリ

- ・行政と住民を結ぶ欠かせない DX 推進基盤

① ホーム画面の構成

- ・ごみカレンダー（ゴミ出し日を P u s h 通知でお知らせ）
- ・災害・防災ミニアプリ（災害情報が分かる・避難する）（情報を共有する・災害に備える）（避難行動につなげる）
- ・佐賀市民証（デジタル市民証）（本人確認に活用）
- ・とびっくタウン（地域情報を P u s h 通知）（双方向のコミュニケーション機能）
- ・子育てナビ（子育て情報をお知らせ）（オープンデータの活用）
- ・学校出欠連絡ミニアプリ「れんらくん」（学校・教育 D X）（出欠や遅刻の連絡）（学校からのお知らせ）（行事予定等の掲示板）
- ・観光アプリに進化（ホーム画面が観光アプリに）（店舗向けのサービスも充実）
- ・プレゼントイベント（スーパーアプリ+マイナポータル）

② 発売から 2 年 4 か月で月間約 8 万アクセス トップ 3

（出欠連絡）（あなたの図書館）（ごみカレンダー）

③ 佐賀市スーパーアプリは未来をつなぐ 佐賀市発・日本初

- ・みんなの共通プラットフォーム

*まとめ

佐賀市のスーパーアプリは全国に先駆けて、住民利便性の向上や住民負担軽減、職員負担軽減（DX による業務効率化）さらにはデジタルデバйд対策とし

て高齢者等へのサポートも重視されている素晴らしい取組であった。本市に於いては、ホームページはもとより、グループラインでの取組や、防災アプリにも取組まれており、また小中学校では、保護者とのアプリでの情報通知や連絡を行っており、電話連絡対応が大幅減となっている。今後も、さらに出来る範囲での市民サービス向上と地域課題解決のため、一つのアプリに複数の行政サービス機能を統合した、導入費用の問題や高齢者の利活用の面などの課題は多くあるが、このスーパーアプリの取組導入に向けて検討することが、重要であり大切と考えるが、

◇：長崎県長崎市　：令和7年11月19日（水）

◎　長崎原爆資料館

○概要

●人口 383,418 人（R.7.10.1）世帯 186,130 世帯

○沿革

1945年8月9日11時2分長崎市に原子爆弾が投下され多くの命が失われました。推計によれば、死者 73,884 人、重傷者 74,909 人、家屋の全焼 11,574 戸、全壊 1,326 戸といわれています。

原爆資料館は昭和 30 年 2 月に被爆資料展示を行っていた、長崎国際文化会館が老朽化したため、名称を改め長崎原爆資料館と改め平成 8 年 3 月に竣工、同年 4 月に開館しました。また、平成 27 年度には、被爆 70 周年事業として、展示環境の改善及び展示内容の充実を図るため、展示室の更新整備を行い現在に至る。

○概要（展示の特徴）

- ① 被爆の惨状を始め、原爆が投下されるに至った経過、及び核兵器開発の歴史、被爆への希求などストーリー性のある展示を行っている。
- ② 大型の原爆被災資料や被爆した浦上天主堂の側壁の展示により、惨状を再現している。
- ③ 映像資料を利用した解りやすい解説
- ④ 主要展示資料には、日本語、英語、中国語、韓国語の 4 か国語でキャプションを表示また、モバイル端末で館内に展示している QR コードを読み取ることによって 11 か国語で展示解説を閲覧できる。
- ⑤ 地下 2 階観覧券売り場で 12 か国語による音声ガイドを貸出している。

*まとめ

長崎原爆資料館は、被爆 50 周年を機に 1,996 年に新設され、館内は螺旋状の通路を通りながら展示を巡る構成となっており、来場者が時間の流れに沿って原爆の悲劇と復興の歩みが体験できる設定となっていた。展示は被爆前の長崎の街の姿が紹介され、原爆投下による破壊と被害の実相が実物資料で示され、熱戦で溶けたガラスや曲がった鉄筋など、当時の凄惨さを物語る遺品がならんでいた。原子爆弾が人類に及ぼした想像を絶する害の状況を更生に伝える共に、長崎市民の平和への願いを広く国の以外に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与するため施設であり、今後も多くの国民をはじめ外国からの観光客が訪れることを期待し、ここに改めての平和への願いの推進をお願いしたい。

◇：福岡県久留米市　：令和 7 年 11 月 20 日（木）

◎　久留米シティプラザについて

○久留米市の概要

- 人口 299,531 人　世帯数 143,597 世帯　福岡市・北九州市に次ぐ第 3 の都市（R7. 4.1 現在）

○整備の背景

- ・市民会館の施設が老朽化と、話題性のある鑑賞公演ができないこともあり建て替えの必要性があった。
- ・医療や高等教育機関がありながらも、学会等の受け皿となる施設が不足。
- ・H 17 ダイエー、H21 久留米井筒屋の閉店により、中心市街地の求心力が著しく低下。

○整備の方向性

- ・これまでの諸課題を補完するホール機能と、コンベンション機能を併せ持った広域の文化・交流促進の中核施設を中心市街地の整備し、文化芸術の振興とまちなかの賑わい創出による中心市街地の活性化を図る。

○施設概要

- 複合施設　（ザ・グランドホール 1,514 席、　久留米座　399 席、C ボックス　144 席、展示室 430 m²、3 分割可、大会議室 530 m² 中会議 240 m² 小会議室 140 m²、長盛（和室）8 帖×3 間、音楽スタジオ 2 室各 61 m² ダンススタジオ 2 室各 105 m²、六角堂広場　膜屋根を設置した、全天候型の広場 1,300 m²、カタチの森　各世代交流スペース、六ツ門テラス　憩いとやすらぎのスペース）
- 平成 28 年 4 月開館
- 総工費　177 億円（国庫 41 億円、合併特例債 125.8 億円、都市プラザ整備基金 3 億円、一般財源 7.2 億円）

○運営主体

- 久留米市直営　行政職員と専門スタッフ側隠を基本に構成

○年間利用来場者数

令和 6 年度　557,604 人

○課題

- ① 文化芸術事業の充実面では、鑑賞者の掘り押し育成、アウトリサーチ土の旧活動の充実と地域資源を活かした文化の創造・発信の強化
- ② 施設運営及び経営面では、財政負担の縮小と新たな収入の確保、さらなる施設稼働と集客の向上、集客効果を地域経済に活かす連携の強化
- ③ 運営体制面では、専門的能力を持った人材の育成・確保と様々な機関等との連携の強化

まとめ

今回の交流拠点施設「久留米シティプラザ」は、中心市街地の活性化を図るた

め旧市民会館の建て替えを軸として、ホール機能や創造、交流、コンベンション機能を併せ持った広域の文化・交流促進の中核施設として整備されたものでした。総工費 177 億の 71%に当たる有利な合併特例債を活用されて整備されてきました。久留米市には大学医学部や大規模な総合病院が数多くあり大規模な学会が開催できるようになったとの事です。そのようなことから広域交流の拠点施設となっていた。また、民間会社や個人からも 1 口 1 万円以上の寄付を募り、その寄付者の名前を館内の壁にネームプレートで掲げる取り組みもされており、収支に伴う歳入へ取り入れられており、参考となるものであった。本市においても、現在、市民会館、文化ホール、福祉文化会館などの文化施設の老朽化に伴う統合化について検討中であります。市議会としてもこの文化芸術振興施設の統合を含めての拠点施設新設への諸課題に関心を強めていき、素晴らしい施設整備に向けて取り組む事が重要であり大切である。

(様式5)

視 察 報 告 書 (会派用)

令和7年11月28日

鳥取市議会議長 星 見 健 蔵 様

鳥取市議会会派新生

会員 星 見 健 蔵 ⑩

令和7年11月18日から令和7年11月20日まで鳥取市議会会派新生の行政視察(調査)に参加したので、その結果を下記のとおり報告します。

記

所見等：

令和7年11月18日(火)佐賀市議会視察

〇スーパーアグリについて

令和7年11月19日(水)長崎平和公園、原爆資料館視察

〇核を持つことで他国に圧力をかけようとする世界を作っている

令和7年11月20日(木)久留米市議会(久留米シティーフォーザ視察)

〇久留米シティーフォーザについて

(合併特例債を活用し、市の実質負担額は3割程度の5/億円
となっています。老朽化、耐震性、バリアフリー化、機能の不足
使い勝手等多くの問題を抱えていたことから、以前より
積立てを行ってきたとのこと)

〇スーパーアプリについて

〇DXとは、デジタル・トランスフォーメーションのこと。

〇身近なDXとしてAI家電(お掃除ロボット・スマートスピーカー)・スマホ決済、ECサイト、テレワークなど。

〇自治体DXとして、オンラインでの各種手続きや住民票のコンビニ交付、AIを利用した議事録作成システムなど。

〔DXの3つの段階〕

1. デジタルイノベーション (アナログ情報をデジタルに「変換」すること)
2. デジタルライゼーション (デジタル情報も活用して業務プロセスを「改善」すること)
3. デジタル・トランスフォーメーション (ビジネスモデルやサービスを「変革」することによって新しい価値を創造すること)

佐賀市では、スマートシティ実現のため、AI等を活用したまちづくりを目指しています。

〇市民サービスDXでは、パソコン、スマホでオンライン申請、佐賀市公式「スーパーアプリ」の構築

〇防災DXでは、災害、防災情報のデジタル化、ドローン、スマホを活用した災害復旧

〇子育て、教育DXでは、子育て情報、教育現場のデジタル化・オンライン化、位置情報システム等を活用した見守り。

〇産業DXでは、ICTを活用した経済DX、AI・IoT等を活用したスマート農林水産業など重点分野と重点取組を行なっている。

〇佐賀市が目指す未来像「スマート・ローカル! SAGACITY」推進方針では、最新技術と効果的に日常に取り込み、社会が人々に合わせる仕組みを創り出し誰もが「幸せである」と実感できるまちとして、佐賀市版スマートシティを目指す。佐賀市のあらゆるサービスを一つのアプリで使える「佐賀市公式スーパーアプリ」。

ホームページの構成

- ・画面上段にデジタルカード優先情報
- ・画面中段から、カレンダー・電子申請・災害・防災・施設予約・図書館とされており、現在23種取入れているようです。
- ・導入から2年4ヶ月で月間アクセス数80,175回を突破し、佐賀市民の3人に1人が利用しているとのこと。

0スーパーアプリのインセンティブコストとランニングコスト

〔開発委託費〕

- ・令和4年度 6,000万円 (コロナ配布金 10/10)
- ・令和5年度 9,000万円 (デジ田配布金 1/2) } 3,600万円 (コロナ配布金 10/10)
- ・令和6年度 9,000万円 (デジ田配布金 2/3)
- ・令和7年度 9,200万円 (新地方創生配布金 2/3)

〔運用費〕

- ・令和5年度 2,000万円 (デジ田配布金 1/2)
- ・令和6年度 3,500万円 (デジ田配布金 2/3)
- ・令和7年度 3,300万円 (新地方創生配布金 2/3)

令7年11月19日(水)長崎平和公園・原爆資料館視察

長崎市は、18万6140世帯、人口28万3418人(令7年10月1日現在)市制施行は、長崎市と同じく明治22年に登録された市です。1945年8月9日に世界で二番目の被爆都市となりました。また長崎原爆資料館は、長崎市の原爆被爆50周年記念事業の一つとして、1996年(平成8年)4月にそれまで被爆資料を展示していた長崎国際文化会館を建て替えて開館したものです。長崎の街が一瞬にして破壊されたことを語る11時2分を指して止まった時計、被爆前の長崎の街や市民生活、原爆投下時のさのこ雲の映像の展示、核爆弾の現物模型等当時の資料が多く展示されています。追悼と学びを結びつける場として、修学旅行の生徒を始め、世界中から多くの人々が訪れています。

の平和公園は、爆心地北側の丘に位置し、被爆10年後の1955年に整備が開始、公園の中心には、北村西望氏の手による平和記念像がそびえ立っています。右手は原爆の脅威を、左手は平和を象徴し、閉じた目は犠牲者の冥福を祈る姿を表しています。その足元には、被爆で亡くなった人々が湯気を訴えたことにちなむ平和の泉が静かに水を湛えています。また、世界各国から寄贈された平和モニュメントが園内各所に点在しています。毎年8月9日には、この公園で原爆犠牲者慰霊平和記念式典が行われ、長崎市民の平和への願いが国際社会へ広げられることを望みます。

1945年(昭和20年)の長崎市の人口は約24万人。この原子爆弾による被害者数は、死者(7万3884人)、負傷者(7万4909人)と市民の6割以上の方々が犠牲になられています。今もなお世界中で戦争が繰り返され、再び核兵器が使用されることのない社会、核兵器のない世界を目指して行かなければなりません。

令和7年11月20日(木)久留米市議会(久留米シティプラザ)視察

Date

No.

久留米市は、14万3597世帯、人口29万9539人(令和7年11月現在)、福岡市、北九州市の政令都市に次ぐ福岡県第3の大都市となっています。

久留米シティプラザの整備の背景には、施設設備が老朽化し、話題性のある金鑑賞公演が開催できない市民会館の建て替えの必要性、医療や高等教育機関が集積しながらも、学会等の受け皿となる施設が不足していること、平成17年にダイエー、平成21年に久留米井筒屋が閉店するなど中心市街地の活力が著しく低下したことなどが上げられています。

久留米市は、平成17年2月に久留米市+4町による広域合併、平成20年4月に中核市へ移行、平成23年3月の九州新幹線全線開通を踏まえ、平成23年2月に整備の方向性を示し、平成24年5月の基本設計から平成28年4月の開館までの整備スケジュールと建て再開発事業を進められています。

①整備の基本方針として、これまでの諸課題を補完するホール機能とコンベンション機能を併せ持った広域の文化・交流促進の中核施設を中心市街地に整備し、文化・芸術の振興とまちなかの賑わい、創出による中心市街地の活性化を図る。

②施設機能には、ホール機能(演劇、舞踊、コンサート、大規模会議等のホール)創造機能では(市民等が演劇や音楽等の練習や創作、発表の場)交流機能では(市民等がそれぞれの交流を深め、ネットワーク化を図る場)コンベンション機能では(学会等の多様なコンベンションや展示会等の場)として、広く利用できる施設を目指しています。

事業費の総額177億円の内訳は、国庫補助金(暮らしにぎわい再生事業)41億円、合併特例債125.8億円、都市プラザ整備基金3億円、一般財源7.2億円となっています。尚市の実質負担額は、一般財源7.2億円、基金3億円、地方債の元利償還額40.8億円、実質負担額は、51億円となっています。